

環境先進国

ドイツから学ぶ

吉田 浩巳

53



「東日本大震災による今回の原発事故は想定外だった」という言葉をよく聞きます。

これからは「想定外のこと」が起こった時にどういった対処方法があるのか」を検証しておく必要があります。

今回の福島原子力発電所の事故についても、原発は何重にも安全確保のための措置が施されていて安全だといわれてきました。仮に、今回の地震や津波ではなく、例えば地下火山の爆発やさらにい

え、非常時には速やかに対策を講じ、解決できるという状況が望ましいのではないのでしょうか。原発だけでなく、事故が起こった時に解決策が見つかっていないものの使用はできるだけ控えるべきでしょう。

国民の意見というのは多様で、それぞれの事象によっても同じ意見の方、違う意見の方が入り乱れており、整理するのは大変難しいのが現状です。

エネルギー政策を考える③

幼少時から社会訓練を

ば、テロがミサイル攻撃をしてきた場合など、これらも方が起こった場合は再び「想定外」というのでしょうか。原子力発電に関しては、事故が起こらない方法を考えるのも大切ですが、事故が起こった時の解決策の研究を進

今、政治に求められていることは、今の時代が直面している課題解決だけではなく、子どもや孫、さらにその先の世代に不幸を押しつけるものであってはならないことです。大きな視野での判断が政治には求められると思いま

す。

また、今回のような未曾有の災害に対しては、法律で定められていないことへの対応も余儀なくされています。こういった時こそ政治の出番で、ある種、法にはなじまない部分や法があ

えて沈黙している領域こそ政治的な判断を下し、よりよい方向に導いていくことにあると思います。

同時に、できるだけ早く法整備に着手し、必要な手立てを必要などころに打ってほしいと願っています。

ドイツでは、ライン川での魚の大量死の事件、あるいは自国の事故ではないもののチエルノブイリの原発事故で国民が自ら政治の方向性を選択しています。選挙における投票率は政治への参加のひとつの大きな指標といえます。

ドイツで森の幼稚園を訪問

した時にその日の遊びを子どもたち自身に選ばせていました。具体的には、先生があらかじめ三つの遊びのメニューを準備します。そして、年齢に関係なく、他の子どもには自分がどの遊びに投票したか分からないような方法で全員に投票をさせます。

三つのうち二つが同票の場合、さらに投票を繰り返す徹底ぶりです。このことにより、子どもたち自身に、物事の決定に自分の意思も含めて多い意見が採用されるという民主主義の原点を学ばせているわけです。

こういった指導方法も大人になつてからの社会参加に対する考え方に大きな影響を及ぼしているのではないのでしょうか。

(社団法人まちづくり国際交流センター理事長)

毎月第2、第4、第5水

曜日掲載



校舎の裏に置いてある投票箱に遊びたい遊びについて投票する子ども